

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



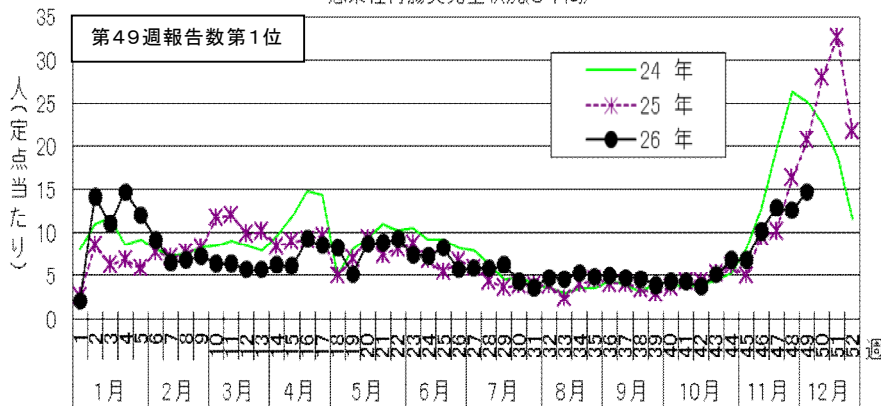
KAWASAKI CITY



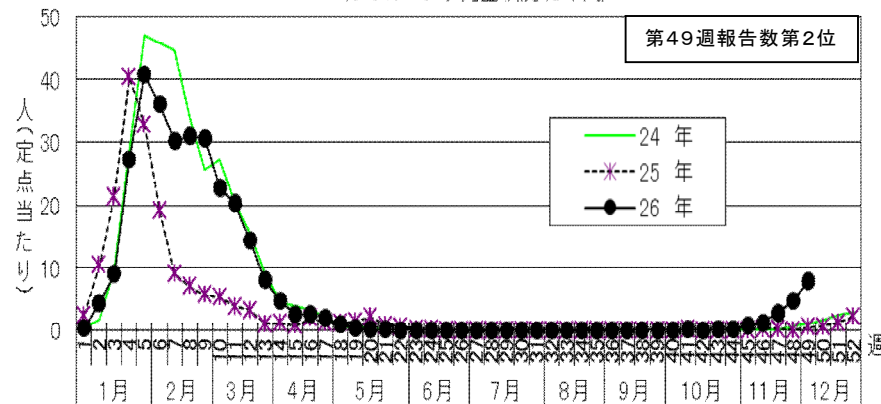
平成26年12月1日（月）～平成26年12月7日（日）〔平成26年第49週〕の感染症発生状況

第49週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)インフルエンザ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は14.73人と前週（12.52）から増加しましたが、例年とほぼ同じレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は7.85人と前週（4.76）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.48人と前週（2.76）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



インフルエンザ発生状況(3年間)



過去最多の報告数～RSウイルス感染症～

現在、全国的にRSウイルス感染症の患者報告数が増加していますが、川崎市においても第49週の定点当たり報告数が1.30人となり、平成15年のデータ収集開始以降、過去最多となりました。

RSウイルス感染症の特徴は？

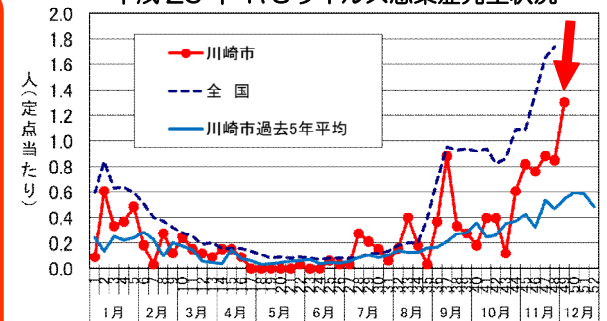
潜伏期間：2～8日（主に4～6日）

感染経路：咳や鼻水などによる飛沫・接触感染です。

症状：発熱、鼻水などの症状が数日続きます。発症の中心は0～1歳児で、多くは軽症で済みますが、初感染乳幼児の約3割に喘鳴、呼吸困難などが出現し、肺炎や無呼吸発作などを発症することがあります。

その他：心疾患・肺疾患・免疫不全などの基礎疾患を有する小児、ダウン症の小児、生後3か月以内の乳児では、重症化するリスクが高いため注意が必要です。

平成26年RSウイルス感染症発生状況



RSウイルス感染症と気付かない年長児や成人が、0～1歳児にウイルスを感染させることがあります。飛沫感染対策としてマスクの着用を、接触感染対策として流水・石けんによる手洗いを徹底することが大切です。